

# 富山大学アーカイヴズ・ニュースレター

—富山大学の未来をひらくアーカイヴズ—

ARCHIVES NEWS LETTER

2021.3.31 第8号

## 遠隔授業・大雪

アーカイヴズ室長 鈴木 景二

この一年、わたしたちは新型コロナウイルス感染拡大という事態に直面し、手探りでさまざまな対応を迫られました。大学でも昨年前期、学生を前にして授業を行うという当たり前のことができなくなり、遠隔授業の通常化がはじまりました。大学構内からは人影が消えました。しかしそのとき、大学を覆うインターネット空間では、多数の授業が飛び交っていたはずです。この大きな変化の経験も、大学の歴史に残る重要な出来事です。

このような電子情報やその通信が主流となっていく日々の営みにたいして、紙媒体の記録や文書、資料を保存し活用することを使命とするアーカイヴズは、どのように対処していけばよいのかという問題が、明確に浮かび上がります。

またこの冬は、思いがけない大雪に見舞われました。物資のトラック輸送が困難になり、学内の生協からも品物が無くなりました。これもまた富山大学の歴史に残る出来事です。まずは、構内の積雪の情景写真を残すべきと考えております。

いっぽう昨年、人間発達科学部から科学教育の様子を彷彿とさせる各種の実験用具をいただくことができました。御礼を申し上げます。他にもこうしたモノがございましたら、情報をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

## 「富山高等學校開校記念碑」を読む

理事・副学長 磯部 祐子

富山大学構内には、いくつかの石碑があります。その多くは、ある出来事を記念して建てられたもので、先人の威徳を後世に伝えたいとの思いが込められています。五福キャンパスのメインロードから人文学部に通じる径の左側に見える「富山高等學校開校記念碑」もその一つです。

この碑は、現代の富山大学の前身といえる「旧制富山高校」の玄関前にあったものを、「新制富山大学」創立時に移したものです。御影石の台石に記された「記念碑」三文字は、当時の知事・伊東喜八郎<sup>①</sup>の揮毫であり、碑石の撰文と揮毫は漢文担当助教授であった中島千松<sup>②</sup>によってなされています。



旧制富山高等學校校舎(現、馬場記念公園)

① 1882—1977

② 図書課課員にも任じられていた。『富山高等學校十年史』附表18頁、昭和8年刊

伝統的に正式であると目されていた漢文による碑文からは、旧制富山高校創設の経緯、開学の喜び、そして時代の息吹を感じとることができます。以下、原文、書き下し文、現代語訳の順に記します。

(原文)



富山高等學校開校記念碑  
大正十三年春正月 今上天皇時在 東宮  
行成婚大典中外欣仰靡弗表其慶前此岩瀨  
馬場春子白于官日縣下未有高等學校之設  
誠憾事也請納實建立用紀奉祝縣尹伊東喜  
八郎深慮其謀乃相地於城東經始焉是實元  
校之所由始也十二年冬十二月舊學習院  
教授南日恒太郎補學校校長其業益張翌年秋  
東宮殿下簡特使開校祝儀以為榮昭和三年  
今上即位之歲本校體制已完成矣土地剛燥  
規模宏敞東通觀山之靈西挹神江之勝饗堂  
寮舍巍然聳立凡百施設咸莫不完備會南日  
校長遽列于職教授榮山槐郎繼其任於是內  
外相謀十月十七日舉行開校祝典是日也  
朝野官民來助其儀者以千數蓋亦盛矣於戲  
本校賴于 東宮成婚之時而成于 今上即  
位之際天下未有如斯休美者也況又嘗沐我  
皇眷顧者哉列籍本校者仰而思之則不待發  
揚倡導而自有所感奮興起者矣然則建碑紀  
盛豈獨傳諸不朽云爾謹記  
維我學校 既固既全 宸眷寵被 光輝永傳  
奉揚弗忘 朝夕乾乾 修文練武 以答聖天  
昭和三年 今上即位之歲十月中流



なお、文中、「今上」「東宮」の上の一字分の空白がありますが、これは、下に続く語に敬意を払うための「闕字」という表記法です。

#### (書き下し文) 富山高等学校開校記念碑

大正十三年春正月、今上天皇、時に東宮<sup>ましま</sup>に在す。成婚の大典を行いたまうに、中外欽仰し其の慶を表せざる靡<sup>な</sup>し。此れより前、岩瀬の馬場春子<sup>さき</sup>③、官に白して曰く、「縣下未だ高等学校の設有らず、誠に憾事なり。貨を納め建立し紀を用って奉祝せんことを請う」と。縣尹伊東喜八郎<sup>もう</sup>④、深く其の議を聽し、乃ち地を城東に相して經始するなり。是れ實に元校の由りて經始する所なり。十二年冬十二月、舊學習院教授南日恒太郎<sup>ただ</sup>⑤學校長に補し基業益ます張る。翌年秋、東宮殿下、特使に簡して校況を閱せしむ。僉以て榮と為す。昭和三年今上即位の歳、本校體制已に完成す。土地剛燥、規模宏敞にして、東は劔山の靈に通じ、西は神江の勝を抱る。覺堂寮舎巍然として聳立し、凡そ百施設咸完備せざる莫し。會たま南日校長遽かに職に殉し、教授柴山槐郎<sup>みな</sup>⑥其の任を繼ぐ。是に於いて内外相謀り、トして十月十七日開校祝典を舉行す。是の日や、朝野官民來たりて其の儀を助くる者、千を以て数う。蓋し亦た盛なり。於戲本校東宮成婚の時に勦まり、今上即位の際に成る。天下未だ斯くの如く休美なる者有らざるなり。況んや又た嘗て我が皇眷の顧るを沐するをや。本校に列籍する者仰ぎて之を思えば則ち發揚倡導するを待たずして自ら感奮興起する所有るなり。然らば則ち碑を建て盛を紀さん。豈に獨り諸を傳えて朽ちざらしめん云爾哉。銘の曰く  
維れ我が學校 既に固まり既に<sup>まつた</sup>宸眷<sup>しんけん</sup>⑦を寵被し 光輝永く傳わらん  
奉揚して忘れず 朝夕乾乾として 文を修め武を練し 以て聖天に答えん

昭和三年 今上即位の歳十月中浣(十日)

#### (訳文) 富山高等学校<sup>⑧</sup>開校記念碑

大正十三年春正月<sup>⑨</sup>、その時、今上天皇<sup>⑩</sup>は東宮でいらっしゃって、御成婚の大典が挙行されたところ、国内外の人々は殿下を崇め奉り誰もが慶賀を表した。これに先立ち、富山市岩瀬の馬場はる<sup>とじ</sup>刀自は富山県に次のように建議した。「わが県には未だ高等学校がなく、誠に残念な事でございます。寄付いたします財貨を使って建設し、これを以てご婚礼のお祝いとさせていただきますと存じます」。県知事の伊東喜八郎はこの建議を是とし、城東の地<sup>⑪</sup>を選んで建設の許可を下した。これが本校創立の由来である。十二年冬十二月、旧學習院教授の南日恒太郎を學校長に招くと、建設事業はますます発展を見せた。翌年秋<sup>⑫</sup>、東宮殿下が特使を遣わされ現況を視察せしめたことは関係者一同にとって光栄なことであった。昭和三年、今上陛下即位の年には、本校の全体像は已に完成していた。土地は建設するにふさわしく規模も広大で、東は劔岳の靈場に通じ西は神通川の景勝をひかえ、校舎や学生寮は雄々しく軒を連ね、不足している施設はなかった。折しも南日校長が不幸にも突然<sup>⑬</sup>殉職されたので、柴山槐郎教授が後任の校長の職を継いだ。そこで、開学の期日について学校内外の者で協議し、十月十七日を選んで開校の祝典を挙行することとした。その日、朝野官民を問わず祝典に列席した者は千を数えた。なんという盛大なことであったか。ああ、本校は東宮殿下(すなわち今上陛下)が御成婚の時に始まり、陛下御即位の時に完成したのである。世にこれほど素晴らしい謂れを持つ学校はないであろう。ましてや皇室の宸慮をいただいたのである。本校に籍を置く学生はそれらのことをありがたく崇め慕えば指導されることを待つまでもなく自ら発奮することであろう。そこで、この隆盛の御代に、我々も碑を刻してそれを伝えよう。万世不朽のものとしようではないか。銘文に記す。

我が學校 既にその基盤成り 天子の恩寵を蒙り 誉はとこしえに伝えられよう

その恩を畏みて忘れず 朝夕に敬い慎み 文武を修練し 以て聖上に報いたいと願う

昭和三年 今上陛下御即位の年十月十日

碑文は、馬場はる氏が、昭和天皇(当時まだ皇太子)の成婚を記念して旧制富山高等学校開学のために寄付したこと、そして昭和天皇が即位した年に旧制富山高等学校が完成したこと、また、天皇から格別の配慮(現況視察の特使を遣わしたこと)をいただいたことをこの上なく名誉なものであると讃えています。

はる氏が寄付を思い立ったのは、もとより、越中に高等学校をとの切なる願いがあったからでしょうが、天皇即位を奉祝したいとの思いもあったのです。彼女が知事に宛てて記した(創設)「寄附願」(大正十二年五月十五日)「皇

③馬場はる(1886—1971)。富山市岩瀬の廻船問屋の妻。旧制富山高等学校設立のための出資を行う。富山大学図書館ヘルン文庫も、馬場はるの出資による。

④第十九代富山県知事。1922年就任。

⑤旧制富山高等学校初代校長。1923年11月—1928年7月在任。水泳の授業中、心臓麻痺にて急逝。

⑥旧制富山高等学校第二代校長。1928年7月—1931年3月在任。

⑦天皇の恩寵

⑧旧制富山高等学校のこと。

⑨1924年1月26日

⑩昭和天皇を指す。

⑪現富山市蓮町

⑫11月3日

⑬1928年7月

⑭『富山高等學校十年史』5頁。

⑮「立山三の越の御製碑」『越中の文学と風土』(廣瀬誠著、桂書房、1998)

⑯『南日恒太郎遺稿と追憶』(田部隆次編、私家版、1934)田部隆次は、南日恒太郎の弟。東京帝国大学英文科でラフカディオ・ハーンに学び、のちハーンの研究と翻訳で知られる。



太子殿下今秋御婚儀被為<sup>あげなされそうろうおもむき</sup>擧候趣 皇室ノ御繁栄ハ勿論國家ノ一大御慶事無涯奉<sup>しよくがたてまつりそうろう</sup>祝賀候就テハ御成婚奉祝事業トシテ七年生高等學校設立願上度金壹百萬圓也ヲ寄附シテ以テ君國報恩ノ微意奉表致度存候・・・」<sup>ねがいあげたく</sup> ⑭からもそれを窺うことができます。

この翌年、大正十三年の秋十一月三日、摂政宮裕仁親王、後の昭和天皇は、陸軍大演習御統監のため、富山県西砺波郡埴生村（現、小矢部市）に足を運びました。そして、そのとき目にした雄々しく連なる立山を、宮中新年歌会始で、「山色連天」と題して、「たて山の 空に聳ゆる ををしさに ならへとぞ思ふ みよのすがたも」と詠まれました。富山県はこのことを慶び、この歌を立山三の越の巨大な岩に刻みました<sup>⑮</sup>。以後、富山において、成年式の登山儀礼としてこの巖に参りこの歌を斉唱することが習わしとなります。当時の成年男子には「ををしさ（雄々しさ）」こそが求められたのです。

さて、「山色連天」歌碑の建立に当たっては、旧制富山高等学校初代学長の南日恒太郎先生も登山し入念に実地検分を行っています。先生は、この歌碑を目にしたとき「これぞこのさとの御歌 巖ならぬ われらが身にも とはに刻まん」<sup>⑯</sup>と歌っています。「さとの御歌（お導き下さる御歌）」を自分の身に永遠に刻もうという歌意からは、やはり天皇への崇拝をみることができるでしょう。

「富山高等學校開校記念碑」建立は、碑文の末尾から昭和三年に行われたことがわかります。この年は、大正天皇の崩御を受けて踐祚した昭和天皇の即位の礼が行われた年です。現在、その時から早くも九十年が経ち、碑文に記されている時代感覚や価値観は大きく変容したように思います。しかし、新たな学問の地が完成した当時の喜びには、時代を経てもなお共鳴できるものがあります。

旧制富山高校の設立こそが、今日富山における高等教育の隆盛への道を拓き、富山大学の大きな礎になっているといえます。

## コロナ禍のなかの大学

アーカイヴズ副室長 入江 幸二

2020年度が、新型コロナウイルス感染症に振り回された一年であったことは言を俟たない。対策を迫られた各部署の教職員はもちろん、学生たちも多大な苦勞を強いられたことと思われる。富山大学の歴史という点から見ても、おそらく未曾有の事態であるのは間違いないだろう。そこでこの1年の大学について、簡単にまとめておきたい。

2020年1月17日付で「新型コロナウイルスに関する注意喚起について（第一報）」が本学でも発せられた。3月24日の学位記授与式は例年と異なり各学部棟で行われ、祝賀会は開催されなかった。それでも、この時期は県内で感染者が出ていなかったためか、まだマスクをつけていない人もいた。

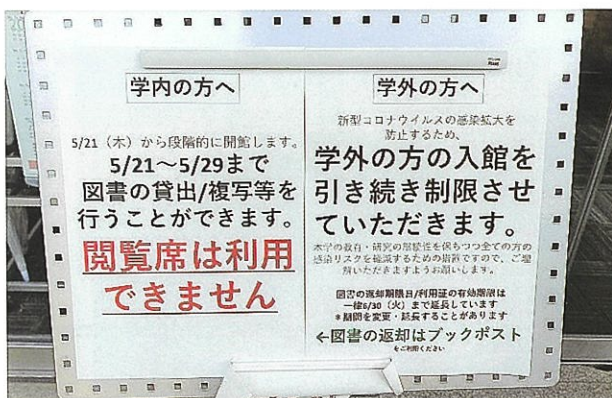
危機意識が一気に高まったのは3月末以降であろう。入学式は急遽配信形式に変更され、前期の講義開始も4月23日に延期された。その後はMoodle等を利用しながらオンラインでの授業が始まり、実験等について対面形式が再開されたのは6月になってからだった。また講義開始までの間に、生協のレジ周辺や事務室ではウィルス対策として透明シートが設置されたほか、図書館では入館制限が実施された。



2019年度人文学部学位記授与式



シートを取り付ける生協(4月16日)



中央図書館入り口の掲示(5月22日)





消毒液を置くTULIP(8月13日)



本店食堂(10月12日)

講義に関しては、MoodleとZoomを併用するとともに、PowerPointのようなプレゼンテーションソフトを使って講義を進めた教員が多かったのではないだろうか。筆者の場合、少人数の演習の場合はZoomを利用して発表と質疑応答を行い、大人数の講義形式の場合は音声動画をサイトにアップしておき、そのURLとPDF資料をMoodleから閲覧・ダウンロードできるようにしていた。いつもと異なる授業スタイルに合わせるため、休日返上で資料を作成した教員も大勢いたのではないと思う。

後期になると対面授業が開始され、キャンパスに学生の活気が戻り始めたが、学園祭が開催されなかったことは残念である。また11月に学生のなかでクラスターが発生したため一時的にオンライン授業に戻るなど、状況は依然として安心できるものではない。3月の学位記授与式も、2019年度と同じく学部ごとに、簡素なスタイルで行われた。

本稿では紙幅の関係から、五福キャンパスに関する説明に終始した。杉谷・高岡両キャンパスおよび各施設等でもどのような状況にあったか、大学アーカイヴズ宛てにご連絡をいただければ幸いである。



対面授業開始後、本店食堂に並ぶ学生(10月20日)

## 旧教育学部・実験器具の受領について

アーカイヴズ副室長 入江 幸二

2020年9月25日、人間発達科学部の成行泰裕准教授のご尽力のもと、旧教育学部時代の機器類を大学アーカイヴズが受領した。しっかりした作りの木箱に保管されており、天秤・分銅、電流計、抵抗計、顕微鏡、分光計、施光計、抵抗器、風速計、電圧計、マクデプルク半球など30以上に及ぶ。なかには戦前のものと思しき機器も含まれていて、かつての教育・研究の様子を彷彿とさせるが、理科教育の歴史という点からも興味深い資料であろう。

